



# 学校だより

令和7年度 2月号  
令和8年 2月4日  
さいたま市立大谷口中学校

[学校教育目標] かしこく 美しく たくましく

焦らず粘り強く、己を信じて

校長 高村 昌利

1月は日本列島を寒波が襲い、日本海側や東北、北海道の各地域で大雪が降り、生活に大きな被害を与えていました。さいたま市でも早朝に氷点下の気温を記録する厳しい寒さが続いています。しかし、暦の上では立春を迎えます。梅の開花の知らせとともに、学校では、3年生の「春」が順々に告げられているところです。

1月下旬から県内外の私立高等学校や県立特別支援学校等で本格的に入学試験が始まり、先週は第1志望校に合格した生徒が吉報を届けに校長室を訪れました。満面の笑みで報告する姿から、私も生徒たちから大きな気力をもらいました。桃の節句を過ぎる頃には、3年生一人ひとりの進路が決定することを心から願っています。

以前、私が3年生の担任として進路指導に携わっていた頃、受験生のモチベーションや気持ちのもち方には個人差があると強く感じていました。1月に進路が決まって「もう終わった。」と安心する生徒がいる一方、周りが受験を終えていくことで焦りが芽生え、自分のペースを乱してしまう生徒がいます。当初の予定どおりに進む場合もあれば、周囲の状況や心境の変化から進路を大きく変更する場合もありました。

また、自信をもって自分のペースで学習を進めてきたのに、不安から学校を休んで勉強に集中しようとする生徒がいました。ある生徒が「先生、明日から学校を休みます。勉強時間が足りないので、授業の時間を家での受験勉強にあてます。」と相談してきました。私はその生徒に、「いつもどおり規則正しい生活を送ることが、合格への最短距離。大事なことは、焦らずに自分を信じることだよ。」と伝えました。

その後、その生徒は自分のペースを大切に学習を進めた結果、見事に第一志望の県立高校に合格しました。合格後、彼は私に報告に来てくれ、一緒に喜び合ったことを今でも覚えています。「先生、焦らず、普段どおりに頑張ったから、第一志望に合格できました。」と話してくれた彼は、今年で29歳になる立派な教え子の一人です。

進路が決まり受験が一段落する生徒が出てくる一方で、自分のペースを乱してしまう生徒がいても不思議ではありません。そんな時こそ、大事なことは、焦らず、粘り強く、これまで積み重ねてきた自分を信じて、残り4週間を乗り切ることです。

3年生の皆さんが、それぞれの進路で力強く歩み出せるよう、教職員一同、最後まで全力でサポートし、応援していきます。中学校生活は人生の中での通過点にすぎません。だからこそ、前を見据えて歩みを進めていきましょう。一人ではありません。周りには仲間がいます。冬が終われば必ず春が来ます。

インフルエンザが流行しています。マスクの着用、手洗いうがいの励行、十分な睡眠の確保を心掛け、チーム大谷口中学校全員の力で寒波に負けず乗り切っていきましょう。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、今後とも、大谷口中学校の教育活動に、変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。